



いずみ

令和7年1月31日発行

<学校教育目標>
自ら行動する子
かかわり合い、
よりよい自分を
目指す子

学校HP



(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>

校長 鷲見 真太郎

新たな学校教育目標からの変化

教務主任 石橋 玉有

新しい年を迎えてから1ヶ月が経ちました。2025年になり、子供たちは素敵な抱負を胸に1年を過ごそうと思いを馳せています。今年度も残すところ33日になりました。各学年、思い残すことがないように一日一日を過ごしてほしいと思います。

さて、今年度の和泉小学校は、学校教育目標を大きく変えました。「自ら行動する子」、「かかわり合い、よりよい自分を目指す子」の2つを最上位目標に置き、教育活動を進めています。このことにより、和泉小学校では、大きな変化が見られています。それは、「主体性」です。

主要な要因の1つは、校内研究の柱でもある「問い」です。12月の学校だよりでお知らせした「はてな？」です。学習の出会いでの「はてな？」を大切に、問いをもちます。問いを解決する学習過程を教員と一緒に作り、学び振り返ることによって次の課題や問いを見だし、解決しようとする力が身に付きます。学習の中で子供たちは、自己の課題やその他の問題にも気づき、主体的に解決しようとする姿が数多く見られるようになりました。

もう1つが、児童運営委員会の存在です。児童運営委員会では、学校の諸課題や子供たちの声から挙げた議題についてよりよい学校生活となるよう子供たちで考え、創り上げようと活動しています。例えば、2学期に「班で楽しく給食を食べたい」という議題が挙げられました。まず、高学年(4・5・6年)が実際に体験し、学校全体でできるように前向きに考えました。その後、メリット・デメリットを各学級から集約し、低学年でもできる対策を提案しました。現在は、実態に合わせた形で給食を楽しみ、よりよい給食の時間へと変わってきています。その他にも、各行事の係活動やあいさつ運動の取組、児童運営委員会の引き継ぎなど対話を通じた解決や実際の体験を通じた問題解決が図られ、「子供たちで創る学校」という意識が少しずつ高まってきています。

児童の学校評価アンケート結果(裏面)からは、「主体性を引き出す授業をしている」95.9%、「よりよい学級、よりよい学校になるように考えて行動している」92.3%、「クラスの係活動や委員会活動、学校行事にすすんで取り組んでいる」95.3%と、授業に関してや主体的な活動に対して高い数値が見られました。日々の学校生活の中で、子供たち自身が「主体性」の高まりを感じ取っていることが結果にも表れています。

そして、この1年間での大きな変化は子供たちだけではなく、教員にも見られます。これまで主幹教諭の堀口や生活指導主任の関、研究主任の足立が学校だよりでお伝えしてきたように教職員が一丸となって居場所作りや授業力の向上、自治意識を引き出す声かけや対話による解決の場の設定など、子供と一緒に学校を創り上げていこうと取り組んでいます。今後もお互いの「主体性」をさらに高め、子供たちで創る学校を目指していきたいと思います。そのためには、保護者の皆様、地域の皆様のご理解・ご協力が必要となりますので、今後とも本校の教育活動を温かく見守り、サポートいただけたら幸いです。

最後になりますが、保護者の皆様や地域の皆様にたくさんのご理解・ご協力を賜ったことで円滑に教育活動を進めることができました。この場をお借りして、感謝申し上げます。残りの短い日々を子供たちがよりよく過ごせるように尽力してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

2月の生活目標

寒さに負けない体をつくろう

- 友達と誘い合ってなかよく遊ぶ。
- めあてを決めて運動をする。

2月の安全指導

遊びのきまり

- 外遊びや教室遊びのきまりについて再度話し合い、全校児童が安全に楽しく過ごせる休み時間を子供たちと作っていきます。